

熊本県公立高校の入試選抜方法

■入試制度改革の概要

受検者の多様な能力・適性や意欲・関心、努力の成果等について優れた面を積極的に評価し、受検者の受験機会の拡大を図るために、平成17年度入試より前期・後期選抜制が導入されました。37年ぶりの大幅な制度改革で、前期選抜における競争率や学校独自検査問題、後期選抜における数学・英語の選択問題などに注目が集まりました。しかし、平成24年度入試からコースを除く普通科については、前期（特色）選抜を実施しないことが決まり、普通科の学校では受験が1回のみとなりました。また、平成18年度入試より、少子化に伴う県立高校の通学区域の見直し等の再編整備計画が進められており、平成22年度の入試から、以下の内容で実施されています。

- ① 8学区から3学区に再編する。
 - ・県北学区（荒尾市・玉名市・山鹿市・菊池市・阿蘇市 等）
 - ・県央学区（熊本市・合志市・宇土市・宇城市・菊陽町・益城町・御船町・甲佐町 等）
 - ・県南学区（八代市・水俣市・天草市・上天草市・人吉市 等）
- ② 学区外枠もコースを除く普通科については、平成22年度入学者選抜より現行の6.5%から13%へ拡大する。
（※通学区域の線引きに伴う不公平感を緩和）

前期・後期選抜制における概要は以下の内容です。

- ① 前期（特色）選抜の募集人員を、募集定員の70%以内の範囲で当該高等学校長が定める。ただし、熊本市に所在する高等学校においては、募集定員の50%以内の範囲で当該高等学校長が定める。
- ② 前期（特色）選抜を実施する高等学校は、重視する観点を定め、その観点に沿って、学校独自検査（面接、小論文、実技検査等）の中から選抜方法を定める。（独自検査については、複数の組み合わせもある）
- ③ 前期（特色）選抜試験で合格した場合は、必ず入学することが条件。
- ④ 絶対評価への不平等感を是正する目的で、後期選抜において調査書の評定を学力検査の得点を用いて補正する。
- ⑤ 後期選抜において、第1選考後の選考基準は各高校で定める。（主要校は、概ね評定よりも学力検査重視）

令和6年度後期選抜より、熊本市立千原台高校は、熊本市教育委員会が作成したマークシート形式の入試を導入しています。さらに、令和7年度後期選抜より、熊本市立必由館高校も熊本市教育委員会が作成したマークシート形式の入試を導入しています。

令和8年度入試より、インターネット出願を利用しての志願者情報登録や手数料の納付が始まりました。また、令和8年度入試より、県立高校の数学・英語の選択問題は廃止されています。

令和9年度公立高校入試日程

1. 前期（特色）選抜

出願期間	令和9年1月20日（水）～1月25日（月）正午
前期（特色）選抜実施日	令和9年2月2日（火）
結果の通知	令和9年2月9日（火）

2. 後期（一般）選抜

出願期間	令和9年2月12日（金）～2月17日（水）正午
後期選抜実施日	令和9年3月4日（木）3月5日（金）
合格者発表	令和9年3月12日（金）

■前期（特色）選抜制について

前期（特色）選抜では、特別な出願資格はありませんが、合格した場合は必ず入学することが条件となります。平成24年度からコースを除く普通科の前期入試が廃止されたことと、学力検査が実施されなくなったことが大きな変更点です。後期選抜のように共通の問題ではなく、各高等学校が重視する観点にそって、面接、小論文、実技検査、実験、自己表現、総合的な学習の時間の成果に発表に関するもの等、各高等学校長が定めた選抜方法によって選抜されます。令和4年度入試から募集人員は定員の70%以内（熊本市内は50%以内）の範囲で当該高等学校長が定めることになっています。前期（特色）選抜で各学校が重視する観点、募集人員、検査内容、具体的な選抜方法等は、後日熊本県教育委員会から発表されます。

■後期選抜制について

後期選抜では、入学者の選抜は調査書の記録及び学力検査の内容を総合して評価されます。募集定員は前期（特色）選抜の合格内定者数を差し引いた数になります。選抜方法の手順は次の通りです。

- (1) 5教科の学力検査の得点（各教科50点満点／検査時間は各50分）を合計し、合計点の高い順に順位をつけます。
- (2) 調査書の評価については、次の①～③の手順で総計点を算出し、総計点の高い順に順位をつけます。
 - ① 学力検査を行う5教科については、教科ごとに、第1学年及び第2学年の評価に、第3学年の評価を2倍したものを加えて合計し、さらに、その合計点を、学力検査の得点を用いて補正します。
 - ② 学力検査を行わない4教科については、教科ごとに、第1学年及び第2学年の評価に、第3学年の評価を2倍したものを加えて合計します。
 - ③ ①で補正した5教科の合計点に、②の4教科の合計点を加えて総計点を算出します。
- (3) 受験者の中で、(1)の学力検査の順位、(2)の評価の順位が、ともに募集人員以内にある者を対象に、第1選考として、その中から合格者を決定します。
- (4) 第1選考での合格者数が募集人員に満たない場合、各高等学校長は、あらかじめ定めた選考基準に従って、第1選考の合格者以外の中から残りの合格者を決定します。

補正方法 英進太郎君の場合
学力検査の得点合計 169点 補正後の評価の合計 137点

<学力検査の得点>

国語	36
社会	30
数学	28
理科	35
英語	40
合計	169



<調査書の評価>

	1年	2年	3年	×2	合計	補正
国語	3	3	4	8	14	15
社会	4	3	4	8	15	15
数学	4	3	3	6	13	13
理科	4	2	4	8	14	15
英語	3	2	4	8	13	15
音楽	5	3	5	10	18	
美術	4	2	3	6	12	
保体	4	3	4	8	15	
技・家	5	4	5	10	19	
総計点					137	

得点 評定	50 48	47 45	44 42	41 39	38 36	35 33	32 30	29 27	26 24	23 21	20 18	17 15	14 12	11 9	8 6	5 3	2 0
20	20	20	19	19	18	18	17	17	16	16	15	15	14	14	13	13	12
19	20	19	19	18	18	17	17	16	16	15	15	14	14	13	13	12	12
18	19	19	18	18	17	17	16	16	15	15	14	14	13	13	12	12	11
17	19	18	18	17	17	16	16	15	15	14	14	13	13	12	12	11	11
16	18	18	17	17	16	16	15	15	14	14	13	13	12	12	11	11	10
15	18	17	17	16	16	15	15	14	14	13	13	12	12	11	11	10	10
14	17	17	16	16	15	15	14	14	13	13	12	12	11	11	10	10	9
13	17	16	16	15	15	14	14	13	13	12	12	11	11	10	10	9	9
12	16	16	15	15	14	14	13	13	12	12	11	11	10	10	9	9	8
11	16	15	15	14	14	13	13	12	12	11	11	10	10	9	9	8	8
10	15	15	14	14	13	13	12	12	11	11	10	10	9	9	8	8	7
9	15	14	14	13	13	12	12	11	11	10	10	9	9	8	8	7	7
8	14	14	13	13	12	12	11	11	10	10	9	9	8	8	7	7	6
7	14	13	13	12	12	11	11	10	10	9	9	8	8	7	7	6	6
6	13	13	12	12	11	11	10	10	9	9	8	8	7	7	6	6	5
5	13	12	12	11	11	10	10	9	9	8	8	7	7	6	6	5	5
4	12	12	11	11	10	10	9	9	8	8	7	7	6	6	5	5	4

※熊本県教育委員会ホームページより抜粋

◆後期選抜における「第1選考後の選抜基準」（令和8年度）令和9年度分は後日発表されます。

後期選抜の第1選考で合格者数が募集人員に満たない場合に、残りの合格者を決定する際の基準として、各高等学校があらかじめ定めるものです。

【熊本県立高等学校全日課程】※一部高校のみ抜粋

学校名	学科・コース		第 1 選 考 後 の 選 抜 基 準
	学科	コース	
済々黉	普通		学力検査を行った5教科の検査得点の合計を5倍した点数と、第1選考で使用了調査書の評定の総計点とを合計し、合計点の高い順に順位をつけたものを選抜の主たる資料とする。
熊本	普通		学力検査5教科の得点合計を主たる資料とし、第1選考で使用了評定の総計点を参考として選抜する。
第一	普通		学力検査の順位を主たる資料とし、調査書を参考として選抜を行う。
	普通	英語	学力検査（英語は得点を2倍して処理）の順位を主たる資料とし、調査書を参考として選抜を行う。
第二	普通		学力検査得点の合計点（250点満点）の順位を主たる資料とし、第1選考で使用了調査書の評定の総計点を参考として選抜する。
	理数		学力検査得点合計（数学及び理科の得点を2倍にした350点満点）の順位を主たる資料とし、第1選考で使用了調査書の評定の総計点を参考として選抜する。
	美術		学力検査得点合計（250点満点）と実技検査の得点（100点満点）を合計した得点（350点満点）の順位を主たる資料とし、第1選考で使用了調査書の評定の総計点を参考として選抜する。
熊本西	普通		学力検査の得点合計を選抜の主たる資料とし、調査書を参考として総合的に選抜を行う。
	普通	スポーツ	実技検査の得点合計を選抜の主たる資料とし、学力検査の得点合計及び調査書を参考として総合的に選抜を行う。
	サイエンス 情報		学力検査の得点合計を選抜の主たる資料とし、調査書を参考として総合的に選抜を行う。
熊本北	普通		学力検査を行った5教科の検査得点の合計を2倍した点数と、第1選考で使用了調査書の評定の総計点を合計し、合計点の高い順に順位をつけたものを選抜の主たる資料とする。
	理数		学力検査を行った5教科の検査得点（数学と理科は得点を2倍）の合計を2倍した点数と、第1選考で使用了調査書の評定の総計点を合計し、合計点の高い順に順位をつけたものを選抜の主たる資料とする。
	英語		学力検査を行った5教科の検査得点（英語は得点を2倍）の合計を2倍した点数と、第1選考で使用了調査書の評定の総計点を合計し、合計点の高い順に順位をつけたものを選抜の主たる資料とする。
東稜	普通		学力検査得点合計（250点満点）を選抜の主たる資料とし、調査書を参考として選抜を行う。
	普通	国際	学力検査得点合計（英語の得点を2倍した300点満点）を選抜の主たる資料とし、調査書を参考として選抜を行う。
	普通	理数	学力検査得点合計（数学の得点を2倍した300点満点）を選抜の主たる資料とし、調査書を参考として選抜を行う。

公立高校後期選抜 受検者数と倍率の推移（令和4年度～令和8年度）

【公立後期】		令和4年度			令和5年度			令和6年度			令和7年度			令和8年度		
学校名	学科 コース	定員	出願 者数	倍率	定員	出願 者数	倍率	定員	出願 者数	倍率	定員	出願 者数	倍率	定員	出願 者数	倍率
熊本	普通	400	555	1.39	400	599	1.50	400	586	1.47	400	600	1.50	400	623	1.56
済々黌	普通	400	664	1.66	400	533	1.33	400	658	1.65	400	591	1.48	400	565	1.41
第一	普通	320	573	1.79	320	564	1.76	320	603	1.88	320	656	2.05	320	567	1.77
	英語	30	39	1.30	30	34	1.13	30	51	1.70	30	48	1.60	20	36	1.80
第二	普通	320	509	1.59	320	487	1.52	320	510	1.59	320	493	1.54	320	429	1.34
	理数	20	42	2.10	20	33	1.65	20	31	1.55	20	35	1.75	20	30	1.50
熊本北	普通	280	471	1.68	280	437	1.56	280	405	1.45	280	418	1.49	280	379	1.35
	理数	20	41	2.05	20	31	1.55	20	38	1.90	20	52	2.60	20	35	1.75
	英語	20	20	1.00	20	26	1.30	20	24	1.20	20	20	1.00	20	29	1.45
東稜	普通	280	330	1.18	280	386	1.38	280	412	1.47	280	301	1.08	280	340	1.21
	国際	20	18	0.90	20	22	1.10	20	23	1.15	20	25	1.25	20	26	1.30
	理数	20	21	1.05	20	18	0.90	20	18	0.90	20	18	0.90	20	18	0.90

※（倍率）＝（出願者数）÷（定員）

後輩達への激励記

「努力は実る」

熊本高校1年 K・Nさん（熊本高校、熊本学園大付属高校 合格）（「巣立ち」より一部抜粋）

私は中学校一年生の時、英進館に入館しました。中学校一年生から二年生の間は、部活をしていなかったことや定期テストや塾の小テスト、模試で誰よりも高い成績を収めたいという思いから、遊びを両立させながら日々、勉強を頑張っていました。最初はSクラスにいましたが、TSクラスに上がったことをきっかけに、熊本高校を目指してみようという気持ちが少しずつ芽生えてきました。その後、中学二年生の時に、熊本高校の文化祭に行き、楽しそうな学校の雰囲気を感じ、熊本高校に合格するという目標が明確になりました。受験期は、友達みんなでお昼ご飯を食べることや、夕方のコンビニの買い出しを楽しみに勉強を頑張ることができました。毎日、自習室に誰よりも早く行き、家に帰っても眠気と戦いながら夜遅くまで頑張りました。しかし、大予想！模試や小テストで目標としている点数に届かないことや、できる問題ができないなど思い通りにいかない状態が続いた時が何度もありました。その度に、気持ちが沈み、涙を流しましたが、塾の先生方や家族、友達などたくさんの人から励ましの言葉や前向きな言葉をかけていただき、最後まで諦めず受験勉強に取り組むことができました。入試本番では、大予想！模試で身につけた時間配分や解く順番、塾の先生方から教わったことを思い出しながら、自分なら絶対にできると前向きな気持ちで臨むことができました。大予想！模試で一度解いたことがある問題や、今までに培ってきた力で解ける問題が多々ありました。一教科、一教科終わる度に、気持ちを切り替えて次の教科に集中することができました。これから受験に挑む皆さんへ。受験勉強や模試を重ねていくと同時に、不安が募っていくかもしれません。しかし、その分、確実に自分の成長に近づいていると思います。だからこそ、どんな状態でも自分を信じて頑張ってください。特に私が行って良かったと思っていることが三つあります。まず、公式ノートややり直しノートを作ることです。それらを作ること、頭の中が整理され、理解や記憶がしやすくなったと感じています。次に、合格した後にやりたいことなどを考えてモチベーションを高めることです。受験勉強を頑張ろうという前向きな気持ちを奮い立たせることができました。最後に、塾の先生方に、わからないことは必ず質問し、記述問題や作文などは添削していただくことです。私は苦手としていた国語と理科の質問をたくさん行いました。質問を行った後に、解き方をもう一度自分の中で確認し、時間をあけて再び解くことを繰り返しました。自分のどういう考えが解答と結びつかなかったのか気付くことができ、次に問題を解くときに意識しやすくなると考えます。最後まで丁寧に教えてくださった先生方、ずっとそばで支えてくれた家族、互いに励まし合い、高め合った友人にとっても感謝しています。本当にありがとうございました。